

アミロイド PET 検査に関する説明書

1. PET 検査・アミロイド PET 検査薬について

PET とは (Positron Emission Tomography) の頭文字をとったもので、陽電子という放射線を出す物質を含んだ 18F-フルテメタモルと呼ばれる薬剤を静脈注射によって体内に投与し、アルツハイマー病の原因物質であるアミロイド β プラークが脳内に溜まっているか、PET 装置で体の外から撮像し、診断する方法です。使用する放射性同位元素は微量で、放射線の量は約2時間ごとに半減し、主に尿として排泄され、翌日にはほとんど体内には残りません。

アミロイド β プラークが溜まっている場合、認知症の原因がアルツハイマー病である可能性が高くなります。ただし、アミロイド β プラークが溜まってもアルツハイマー病による認知症になるとは限りません。アルツハイマー病以外の認知症や正常な高齢者にもアミロイド β プラークが溜まる場合があります。

この薬剤は稀に重大な副作用としてアナフィラキシーを起こすことがあります。その他の副作用として悪心、血圧上昇などがありますが、これらすべてが薬剤によるものとは限りません。



2. アミロイド PET 検査実施手順

① 注射 : 薬剤を注射します。



② 安静 : 薬剤が脳内にいきわたるまで約 90 分間、安静にさせていただきます。



③ 撮影 : 約 30 分間頭部の撮影をします。
撮影中はベッドの上に仰向けで寝ていただきます。



※ アミロイド PET 検査は、受付から会計まで、約 3～4 時間程度かかります。

※ 使用可能時間が大変短い薬剤を使用しています。機器の故障などで時間通りに検査ができない場合には検査を延期させていただく場合があることをあらかじめご了承ください。

3. アミロイド PET 検査の注意事項

検査終了後は、人の多いところにはなるべく近づかないでください。特に検査終了後は最低でも 6 時間は、妊婦や乳幼児との接触は控えてください。可能であれば、終了後 24 時間は接触を避けてください。

4. アミロイド PET 検査の被ばくについて

アミロイド PET 検査で受ける被ばく量は、約 4.8mSv(ミリシーベルト)です。これは、人が 1 年間に自然界から受ける 2.4mSv の 2 倍程度です。この線量では、急性の放射線障害が起きる可能性は一切なく、将来のがん発生の可能性もほとんどありません。

※mSv(ミリシーベルト)とは放射線が与えた影響の程度を表す単位です。

【引用】 初心者のためのデリバリーPET ハンドブック 2011 年改訂版
日本核医学会 PET 核医学分科会デリバリーPET 委員会